謝野晶子全集

第三卷

講談社

定本　與謝野晶子全集

第三卷　歌集三

昭和五十五年六月十日　第一刷發行

定價　二千九百圓

著者　與謝野晶子

發行者　野間省一

發行所　株式會社　講談社
東京都文京區音羽二―一二―二一
郵便番號一一二　振替東京八―五六〇〇
電話東京(〇三)九四五―一一一一(大代表)

組版　株式會社　熊谷印刷

印刷所　多田印刷株式會社

製本所　大製株式會社

落丁本・亂丁本はお取替えいたします
©與謝野光　一九八〇年

0392-261135-2253 (0) (文事)　Printed in Japan

凡例

一、歌集本文の歌は初刊の単行本を底本とし、拾遺は初出誌・紙より収録した。
一、本文（拾遺を含む）、脚注ともに、漢字・かな使いの表記は原本に依拠した。
一、校訂は初出誌・紙、および新潮社版、改造社版を使用した。
〔初〕……初出誌・紙を示す。
〔新〕……新潮社版『晶子短歌全集』（大正八～九年刊）を示す。
〔改〕……改造社版『與謝野晶子全集』（昭和八～九年刊）を示す。
一、本文中の誤植と考えられるものは※印をつけ、→印で正しいものを示した。
ただし、本文の〔初〕〔新〕〔改〕と拾遺の歌については、誤植と思われるものは原則として正した。
一、〔初〕における表記の意味は次の通りである。
例　黒髪―小天地　明34・8（雑誌「小天地」の明治三十四年八月号に黒髪の題名で収載。）
一、校異は脚注として付した。
例　〔初〕みづあふひ―明星　明37・8(2)(3)銅（かね）にはあれど御佛は（(2)(3)は第二句第三句を示す。ただし、校異が三句以上にわたるものは全句を記した。）
一、〔初〕では初出誌・紙以外の出典を㊂で示したものもある。
一、新聞名は左記の通り略記した。

大阪毎日新聞→大阪毎日	東京日日新聞→東京日日
東京毎日新聞→東京毎日	二六新報→二六
都新聞→都	萬朝報→萬　ほか省略

一、〔新〕〔改〕初版同は新潮社版、改造社版が底本と同じで、〔改〕新同とあるのは、改造社版が新潮社版と同じであることを示す。
一、〔新〕〔改〕などがない場合は、新潮社版、改造社版に採られていないことを示す。
一、脚注の通し番号は底本における歌の順序を示す。

目次

夏より秋へ　一
大正三年
上の巻……三
中の巻……七

さくら草　二五
大正四年

朱葉集　一九
大正五年

舞ごろも　二七
大正五年

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

『舞ごろも』の初めに……二五九

晶子新集

大正六年　二六七

拾遺

明治四十五年・大正元年……三五一
大正二年……三九一
大正三年……四四五
大正四年……五〇一
大正五年……五三六
大正六年……五七〇

解題　逸見久美
解説　木俣修

装幀　アド・ファイブ

夏より秋へ

上の巻

琴の音に巨鐘のおとのうちまじるこの怪しさも胸のひびきぞ

人の世の掟の上のよきこともはたそれならぬよきこともせん

くろ髪の女の族は疎けれどわが師となりぬ人うらむ時

戀と云ふ紅き下著の上に著るおらんだ染のもの好の夢

御心に突き入りし日のおもひ出のなどか今日さへ潑溂とせる

1 〔初〕(無題)—大阪毎日　明45・2・24梵鐘の音と琴の音うちまじるこのあやしさも胸のひびきぞ参梵鐘—新日本　明45・4
〔新〕初版同
〔改〕初版同

2 〔初〕(無題)—東京日日　大元・12・11参早春—雄辯　大2・1
〔新〕初版同
〔改〕初版同

3 〔初〕(無題)—東京日日　大2・1・22(4)(5)人恨む時わが師となりぬ
〔新〕(2)(3)女のむれを疎めども
〔改〕初版同

4 〔初〕百首歌—中央公論　明45・6
戀と云ふ紅き上著の下に著るおらんだ染のもの好きごころ
〔新〕初版同
〔改〕初版同

5 〔初〕百首歌—中央公論　明45・6
御心に衝き入りし日のおもひでの何ぞ今日さへめでたかるらん
〔新〕御心に突き入りし日の思ひ出のなにぞ今日さへ潑溂とする
〔改〕初版同

被けものせんと心のすすむとき猿の頸にも眞珠をば掛く

憶病か蛇かくさりか知らねどもまつはる故に涙こぼるる

もの哀れ知れる心は日のうちに春のかぜ吹く秋の風ふく

君故にあまた樂しき時すぐし死ぬ日となりぬ神もかしこし

むかしの日姉とおもひし櫻草いもうととして君と培ふ

人人はわが話にてしづまりぬ秋は斯かりと思ふ夜かな

むつかしや何を願へる心ぞや云ふまでもなし思はるること

6 〔初〕(無題)—東京日日　大2・3・26
(3)すゝむ時(5)眞珠をかけぬ
〔新〕初版同
〔改〕初版同

7 ※(1)憶病→臆病
〔初〕(無題)—東京日日　大元・12・3
(4)まつはるゆゑに㊂爐—スバル　大2・1
〔新〕初版同
〔改〕初版同

8 〔初〕百首歌—中央公論　明45・6
もの哀れ知れるこころは一日に秋のかぜ吹く春の風吹く
〔新〕初版同
〔改〕初版同

9 〔初〕(無題)—大阪毎日　明45・3・22
(1)君ゆゑに㊂四月の末—新日本　明45・5
〔改〕初版同

10 〔初〕春の歌—中學世界　大2・1
(5)君とつちかふ
〔新〕初版同
〔改〕初版同

11 〔初〕百首歌—中央公論　明45・6
(3)(4)靜まりぬ秋はかかりと
〔新〕初版同
〔改〕初版同

12 〔初〕(無題)—二六　大2・1・20
〔新〕初版同

わが門の二もと柳すこしづつ春めくころのあかつきの雨

わが閨にやがて丁字の匂ふ日の來らむなどと他をおもへども

わがことを人みな賞めてありし時苦しかりしに比ぶればよし

神田川その岸のまち霞まむと病めば都のうちもなつかし

かへらんと更に思はずいにしへに前生の身に君を見ぬ日に

ここちよく分ち能はぬ醉をしぬ目の前のことといにしへのこと

わが息の虚空に散るも嬉しけれ年の明けたる一日二日

13〔初〕(無題)—二六　明45・2・16
(5)夕ぐれの雨㊇梵鐘—新日本　明45・4
〔新〕〔改〕初版同
14〔初〕(無題)—大阪毎日　明45・2・11わがねやにやがて丁字の匂ふ日の來るとし知れば心ときめく㊇
〔無題〕—ニコニコ　明45・3
〔新〕〔改〕初(3)かをる日の
〔改〕初版同
15〔初〕(無題)—二六　明45・3・9(2)人皆ほめて(5)くらぶればよし㊇四月の末—新日本　明45・5
〔新〕(5)比ぶれば好し
〔改〕初版同
16〔初〕春雨—東京毎日　明45・2・11神田川その岸の街かすまむと病めば都のうちもこひしき
〔新〕(5)内もなつかし
〔改〕初版同
17〔初〕(無題)—東京日日　大2・3・26(1)歸らんと
〔新〕〔初〕版同
〔改〕初版同
18〔初〕百首歌—中央公論　明45・6
ここちよく分ちあたはぬ醉ひをしぬ目前のことといにしへのこと
〔新〕初版同
〔改〕初版同
19〔初〕(無題)—東京日日　明45・1・7(2)虚空にちるも(5)一日二日㊇春の歌—新日本　明45・2

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

あめつちの白地の春に少女子の遣羽子の音金砂子おく

大ぞらにしろがね色の花ぶさの見ゆとも思ふ春の來ること

しろ石もみどりの石も美くしく春日の神の口づけを受く

手弱女がましろに匂ふ手を上げて賞むべき春となりにけらしな

不可思議のよもあらじとて入りも來し女の心の臓ならめ君

鏡には何をとどむる不幸なる女王のゆめと帝王のゆめ

君とまた再會すべき家としてしげるをめづるいちじくの葉よ

20〔新〕〔改〕〔初〕(5)一日二日
〔初〕(無題)—東京日日　明45・1・6
(1)天地のしろ地の春に㊂春の歌—新日本　明45・2
(2)遣羽子のおと
〔新〕(4)
〔改〕〔初〕版同
21〔初〕(無題)—東京日日　明45・1・7
(1)青空に春來ることを㊂春の歌—新日本　明45・2
(5)
〔新〕(1)大空に
〔改〕〔初〕版同
22※(4)春日—春日
〔初〕(無題)—東京日日　明45・1・6
(4)(5)初日の神の口づけをうく㊂春の歌—新日本　明45・2
〔新〕青き石ましろき石もうつくしく春の光のくちづけを受く
〔改〕〔初〕版同
23〔初〕春の歌—大阪毎日　明45・1・4
たわやめが眞白に匂ふ手をあげて賞むべき春となりにけらしな㊂春の歌—新日本　明45・2
〔新〕〔初〕版同
〔改〕〔初〕版同
24〔初〕(無題)—萬　大元・12・28
(3)入りもこし㊂爐—スバル　大2・1
(3)入りも來し
〔新〕
〔改〕〔初〕版同
25〔初〕(無題)—東京日日　大元・12・15
(1)その鏡大2・1
(5)帝王の夢㊂三輪の神—朱欒
26〔初〕佐保姫—ル・イブウ　大2・

二月や怒をおびし丹はなだの雲のうかびて霰ふるかな

清浄につゆよこしまのなきものに彼の日の戀もなりて終りぬ

わが知らぬことに喜ぶ群はなれ再びもとの片隅に行く

わが君を深くうらむは危ふかりかたちのいまだおとろへぬため

くろ髪やまだあざけりの心もて春に會はぬをよろこべる人

青き火に捲かると云はる戀すれば泉下の人の魂に似るらむ

涙しぬ今人のごと戀と云ふ生死のたね蒔きしここちに

2 (4)しげるを愛づる
〔新〕(4)(5)茂るを愛づるいちじくの枝
〔改〕初版同

27 〔新〕(2)怒りを帶びし

28 〔初〕三輪の神—朱欒 大2・1
〔新〕清らかにつゆよこしまの無きものにかの日の戀もなりて終りぬ
〔改〕初版同

29 〔初〕(無題)—大阪毎日 明45・3・11 (2)事によろこぶ(5)一隅に行く 四月の末—新日本 明45・5
〔新〕(3)むれはなれ

30 〔初〕(無題)—東京日日 大元・12・8 三輪の神—朱欒 大2・1

31 〔初〕春の歌—中學世界 大2・1
(2)まだ嘲りの(4)春にあはぬを

32 〔初〕(無題)—東京日日 大元・12・28 (1)(2)青き火がつゝむとぞ云ふ 盧—スバル 大2・1

33 〔初〕百首歌—中央公論 明45・6
跳るなれ今人のごと戀と云ふ生死の種まきしいはひに
〔新〕(1)涙おつ
〔改〕初版同

何やらの上に載せたる鍋見ゆる秋風の日の君が家かな

紅梅に地獄繪のごと赤黒く入日のさせばいきどほろしき

朝夕かたはらに笑む櫻草はたかたはらに泣くさくら草

ほのかにも白きけものの尾を振りぬ動物園の朝靄の中

わが子の目うるみてやがて隱れたる障子のそとに春の雨ふる

人の世は貧しき心もちたるもわれの如きもおなじ戀する

いさかひてはては涙もながしけりこれを寒しと更におもはず

34〔初〕(無題)—東京日日 大2・10・10㊂雪絹—處女 大2・11

35〔初〕(無題)—萬 明45・2・3(4)(5)夕日のさせばたたくわが琴㊂櫻草—新日本 明45・3〔新〕初版同〔改〕初版同

36〔初〕(無題)—二六 明45・2・18朝夕かたはらに笑むさくら草かたはらに泣くこの櫻草〔新〕(1)朝夕に

37〔初〕(無題)—萬 明45・2・17ほのかにも白きけものが尾をふりぬ動物園の朝もやの中〔新〕初版同〔改〕初版同

38〔初〕春雨—東京毎日 明45・2・11(4)障子の外に㊂(無題)—ニコニコ 明45・3・4 梵鐘—新日本 明45・4〔新〕初版同〔改〕初版同

39〔初〕そよかぜ—現代 大2・2(5)同じ戀する

40〔初〕(無題)—東京日日 大2・1・17いさかひて果ては涙もながしつれこれを寒しとゆめ思はざり㊂(無題)—二六 大2・1・23〔改〕初版同

よく知りぬ次の刹那に自らを笑はしむべきありのすさびと

戀をして趣のなき終をばめでざる人のふところの劒

淺みどり柳の枝の中行ける紺のきものの春の夕ぐれ

三月の柳を折りてあまりにも物をかくさぬ風流男を打つ

佐保姫にしら玉姫におないどし去年も今年も來ん年もまた

見ることをあへてせざるはこの人も彼も弱さの同じければぞ

うら庭の千日紅を血まみれの花と忌むなり物に怖れて

41〔初〕(無題)—東京日日　明45・3・25(1)指ざしぬ㊂四月の末—新日本明45・5〔改〕初版同

42〔初〕(無題)—東京日日　明45・3・30戀をして　趣あさき終りをばよろこばぬ子のふところ刀㊂四月の末—新日本　明45・5

43〔初〕佐保姫—ル・イブウ　大2・2後園やなぎの花の中行ける藍の着物の春の夕ぐれ〔改〕(5)春のゆふぐれ

44〔初〕早春—雄辯　大2・1(4)ものを隱さぬ〔新〕初版同〔改〕初版同

45〔初〕早春—雄辯　大2・1春の野の白玉姫とおないどし去年も今年もはた來年も

46〔初〕(無題)—二六　大2・1・14〔改〕初版同

47〔初〕百首歌—中央公論　明45・6(4)(5)花と忌みつるわれを知る君〔新〕初版同

いと寒くかなしきままに明るみへすべり入るなり我が朝の夢

わが吐くは瀕死の息と思ふかな白くかぼそく深く苦しく

一人のわれに答ふるものも無し下部の如き面そむけつつ

たゆければ日の仰がれず紫の幕に隠れて又出でずわれ

地をまろぶ落葉にまじりらうたしや山より來る鳥の足音

かにかくに我身や人と異れるこの賑やかさこの寂しさよ

人おもふ涙は紅き絹となりひるがへるなりわが前の爐に

48〔改〕初版同

49〔初〕(無題)—東京日日　大2・1・16(4)(5)白きか細き夢見るごとき
〔新〕(1)わがつくは

50〔初〕(無題)—大阪毎日　明45・3・11(3)(4)人もなし下僕のごとき㊂四月の末—新日本　明45・5
〔新〕初版同

51〔初〕(無題)—東京日日　明45・4・4(4)(5)幕にかくれてまたいでずわれ㊂四月の末—新日本　明45・5
〔新〕初版同

52〔新〕初版同

53〔初〕(無題)—二六　明45・4・3(3)ことなるこのさびしさよ㊂四月の末—新日本　明45・5
〔新〕(4)この華やかさ

54〔初〕爐—スバル　大2・1人思ふ涙が紅き絹となりひるがへるなり爐の前のわれ
〔新〕初版同

灰色のあはれなる顔する群はうたへる日なく舞へることなし

この君につけて物のみ思はると云ふ下心はかなまず身を

筆をもてあらがひかくす秘言もみなうつくしやこの君のこと

わが涙重きおもひをする日より戀しなど云ふ唯事に落つ

夜となればをはりの近さ知ると云ふ朝は若さを見よとわれ云ふ

硝藥のにほひくすぶるここちしてわが黑髪のここちわろき日

松原の鵠のつばさのさにづらひ日昇るらしも大わたつみに

55 ※(2)〔初〕顔→顔〔無題〕—大阪毎日 明45・3・11 (2)哀れなる顔(4)歌へる日なく㊂四月の末—新日本 明45・5 〔新〕(5)舞へること無し

56 〔初〕〔無題〕—二六 明45・2・27 〔初〕〔無題〕—二六 明45・2・28 (2)つけてもののみ(5)身をはかなまず㊂梵鐘—新日本 明45・4 〔新〕初版同

57 〔初〕〔無題〕—二六 明45・2・28 (2)(3)あらがひ隱すひめごとも㊂梵鐘—新日本 明45・4

58 〔初〕〔無題〕—東京日日 明45・2・26 (5)唯事におつ㊂梵鐘—新日本 明45・4 〔新〕初版同 〔改〕初版同

59 〔初〕〔無題〕—大阪毎日 明45・1・28 (2)終りのちかさを㊂夢のさめぎは—朱欒 明45・2 (4)朝はわかさを〔新〕(3)知ると云ひ

60 〔初〕硝藥—東京毎日 明45・2・2 ㊂櫻草—新日本 明45・3 〔新〕初版同 〔改〕初版同

61 〔初〕春—東京毎日 明45・1・5 (2)鶴のつばさの(4)日のぼるらしも 〔新〕初版同

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com